

33

道徳教育の実践

— 偉人の生き方と和 문화から、日本の歴史と伝統と文化そして美しい自然を学び、生きる力を育む —

刀根啓明 (博多高等学校)

1. はじめに

博多高等学校は、福岡市の北東部に位置し、近隣には仲哀天皇・神功天皇を祭る香椎宮があり、南北朝時代の古戦場、多々良川畔もほど近い。まわりを見渡せば西部～北部は玄界灘と白砂青松が広がり、東部～南部には歴史的にも有名な立花山、宝満山など、緑豊かな自然に囲まれた申し分ない地にある。最寄の JR 駅は千早で、現在、福岡市の副都心として高層マンションが林立し、更なる発展を遂げようとしている。本校は昭和16年に創立し、平成23年に70周年を迎えた。学力・人間力・志を高める進学コース「博多興志館」、一生ものの社会人を磨く「普通コース」、業界最短期間で看護師を育成する「看護科・看護専攻科」の三本柱からなる。生徒数は34クラス1100名である。

70周年を機に「未来輝く人成教育」と銘打って様々の学校改革に取り組んでいる。その一環として寺子屋プログラム（日本に根付いた伝統文化と、そして日本に育てられた偉人の生き方に触れる徳育教育で、高い目的意識と人格と誇りを培う。）の計画を立てる。

生徒の「3年後の笑顔だけでなく、30歳時の笑顔もつくりたい」という思いで・・・。

2. 研究の意図と目的

現在の教育現場では、自己中心的な考え、耐性の欠如、規範意識の低下や自尊感情・自己肯定感の喪失、生命と人権尊重の意識の希薄さなどの心の内面の問題からくる、学級崩壊、不登校、いじめ、インターネット上での誹謗中傷、モンスターペアレントなど様々な問題が生じてきている。そして、その対応に膨大なエネルギーと時間が費やされている。学校は出会いと感動を生徒に与え、生徒は仲間と共に切磋琢磨しながら、人格を磨き、学力を身につけ、夢を育み、いきいきと生活をする。それが本来の姿である。本校はその学校本来の姿を取り戻し、私学として教育の原点に立ち返って、建学の精神に則った全人教育の再生を、徳育の力を信じて実現させたい。

本校の建学の精神であり、教育理念である「知・徳・体の調和のとれた教育により、社会に貢献する人物の育成」、校訓である「誠実・忍耐・努力」を具現化するために効果的かつ計画的に推し進める方策と道徳的実践力を高めることが研究の目的である。

特に、今まで教育活動全般で総括的に行われてきた徳育の部分に焦点を当てて、他校には見られない本校独自の道徳の教科書「日本人として生きる」を作る。その教科書を使用し、総合の時間を使って、偉人の生き方を中心に学習し、その時代の生活を知り、人としての在り方、生き方のモデルとなるものを体感させる。そうして生徒自身に、自己に問いかけさせ、自己を見つめることにより、価値観の再構築を図りたい。授業を通して、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、誇りと自信を植え付け、未来を拓く主体性のある日本人を育成したい。実生活で夢や目標を発見し、挑戦し、実現する意志の醸成。自他共に認め合い、分かち合い、高めあう集団の形成。集団の中の個人としての役割を全うする人格の練磨と向上を目指す。

また、和文化講座を学校設定科目として開講し、年間30時間の選択授業を施し、体験学習を通して日本人の心（礼儀・作法・節度・美意識・美しい言葉・感性・・・）などを育成し道徳教育の側面を補完する。講座は日本の伝統文化である「道」がつくものを体験させるというコンセプトにより（柔道・剣道・空手道・華道・茶道・書道）6つの「道」が設定された。それに日本の美を美しい言葉で表現する伝統文化「俳句」も加え7つの講座とした。

3. 具体的な実践

<平成22年度の取り組み>

福岡中部地区は私学27校公立36校がひしめく、生徒募集の激戦区である。平成23年度に70周年を迎えるにあたり現状を見直し、学校を発展させるためには「私学は一つされどライバル」の意識を持ち、公立校にはできない特色と魅力のある教育活動を地道に実践し、生徒を育て社会に貢献する人材を送り出す使命を果たすことを再認識した。それには本校の教育理念「知・徳・体の教育により社会に貢献する人物の育成」を効果的かつ具体的に実現させることが最重要課題であり、学校発展の礎であることを確認し動き出した。知の部分では教務部、教科会が中心となり、体の部分では体育科、部活動、食育委員会が中心となり、徳の部分では徳育委員会、学年会、生徒会が中心となり短期、中長期の計画の策定にとりかかった。

- ・ 「徳」については平成23年度入学生より、総合の時間を使い「道徳授業」を実施することを決定。
- ・ 本校の理事でもあり、江戸時代の子弟教育を支えた「寺子屋」を現代に復活させようと活動を続ける(株)寺子屋モデル代表の山口秀範氏を道徳担当教員の先生として講義、指導をお願いする。
- ・ 職員全体に道徳教育研修会と模擬授業体験。(後日、道徳授業の担当希望者を募る)
- ・ 道徳授業担当希望者の中から21名の先生を選抜し、職員研修を月1回実施。
(内容は指定図書の輪読、教材研究と指導案の作成、模範授業、模擬授業、合評会)
- ・ 保護者、地域の理解を得る為に保護者、地域、教員対象に月2回偉人伝の研修会を実施。
(外部講師に来ていただいて平成22年6月より平成23年3月まで20回の研修)
- ・ 教科書に載せる人物の選択と担当者による教科書本文を使つての教材研究と模擬授業。

平成22年度 博多高校 de 寺子屋 カリキュラム

実施日	時間	偉人名～テーマ～	伝えたいこと
6月10日	19:00～	寺子屋のスズメ 偉人伝とは	歴史・古典・偉人伝に学ぶべきこと
19日	14:00～	現代高校教育と偉人伝	職責の上に立つ教育観
7月8日	19:00～	井上馨らの長州五傑 維新の活躍	困難に立ち向かい自分の使命を果たす責任感
17日	14:00～	出光佐三 福岡が生んだ偉大な経営者	人間教育のあり方
8月19日	19:00～	松尾芭蕉 この一筋につながる	言葉の響きと美しさ
28日	14:00～	浜口梧陵 ～稲叢の火～	上に立つ人間の深慮
9月9日	19:00～	二宮尊徳 江戸時代の農政家	学問の姿勢・分度と仕法・使命感
18日	14:00～	聖徳太子 十七条憲法に見る人間観	1400年前の太子の十七条憲法の新しさ
10月2日	14:00～	マーガレット・サッチャー 改革	英国病を克服した女・無気力からの脱却
30日	14:00～	宮本警部 ～伏してぞ止まん	殉職警官の誠と勇気
11月10日	18:30～	聖徳太子と山背大兄王	太子の思想とそれを以て現実と直面した山背大兄王
25日	18:30～	間宮林蔵	江戸時代後期、未開の樺太を探検した覚悟と使命
12月4日	14:00～	北里柴三郎 ～終始一貫の生き方	熊本県出身の世界的医学者、その業績と愛国心
22日	18:30～	佐久間艇長と栗林中将	魅力あふれる2人の生き方、死に方
1月14日	18:30～	原敬	生涯、爵位を固辞し続けた宰相の品位に富む人格
29日	14:00～	江藤淳 日本人の誇りを持つ	アメリカ留学と日本語の再発見
2月9日	18:30～	古事記 ～建国の英雄	神話と伝説の魅力
19日	14:00～	高峰譲吉 ～サムライ科学者	国益を守る生き方とは
3月5日	14:00～	夏目漱石 ～明治最高の知識人	「こころ」について
16日	18:30～	お手本を持つ生き方とは	多くの偉人に学んだこの1年のまとめ

<平成23年度の取り組み>

- ・ 「道徳授業」は1年生普通コース8クラス、2年生普通コース8クラスに総合の時間に実施する。
- ・ 21名の道徳担当希望者の中から13名(のべ16名)を選出し、各人に教えた偉人3名を選出させる。(有名な偉人は複数の希望が出るので調整が必要であった)
- ・ 授業のスタートにあたっては、教科書の総論である、「道徳教育の意義となぜ偉人を学ぶのかを」全体で共有するために普通科1・2年562名を体育館に集めて(株)寺子屋モデル代表の山口先生に特別講演を

していただいた。3月末までに1年生27時間 2年生25時間実施。

- ・ 道徳担当者は1クラスに3時間（3週）行き、最終時には生徒にアンケートを書かせ、授業の理解度や感想を把握する。翌週からは担当者が次のクラスへと移動して教える。
- ・ 月に一度道徳担当者会議を開き、進捗の確認やクラスの状況など情報の共有、授業の進め方や資料の与え方など指導方法などの打合せを行った。
- ・ 夏期には徳育委員会主催で研修会を開催。外部からも参加したいとの希望があり、企業、寺子屋モデル、大学生、本校教員など自由参加で模擬授業、1学期の報告と反省。2学期からの取り組みなどを確認する。
- ・ 和文化講座については1年生普通科277名を第3希望まで取らせ、7つの講座に振り分けた。
- ・ 和文化講座の時間は月1回ペースで第1土曜か第3土曜に3時間通して年10回30時間実施した。



< 和文化 華道 >



< 和文化 剣道 >



< 和文化 茶道 >

平成23年度 和文化講座内容一覧

講座	目 標	内 容
柔 道	日本の伝統的な武道を通して礼儀作法を身につける 柔道の基本技術を習得し柔道の特徴特性を理解する	柔道の歴史、挨拶・礼儀などの基本姿勢の体得と実技の反復練習
剣 道	礼節を学び人格を形成する 剣道の基礎と形を学び古来の技術にふれる	剣道の歴史、面打ちなどの技術の向上と剣道形の習得に取り組む
空手道	礼儀・挨拶・態度・返事など空手道を通して伝える 基本技術の習得と共に忍耐力と強い身体をつくる	実技を行いながら、心身を鍛える 基本、形、組手を中心に行う
茶 道	礼儀作法を学び、一通りお手前ができるようになる 日本の伝統文化の素晴らしさを味わう	実技指導を中心に表千家茶道の基本的なお手前を習得する
華 道	日本の代表的な伝統文化の一つである華道を楽しみながら技術を 習得し、免許状の申請資格を有する	池坊が定めている学校カリキュラム をベースに現代の華道を学ぶ
書 道	書を愛好する心情を育てる。感性を高め、書写能力の向上を図る 書の伝統と文化について理解を深める	書を通して集中力・豊かな感性、人の心に迫る「書」の習得に努める
俳 句	日本の美しい自然や美しい言葉に思いを馳せ、感性を磨く 文化祭にて掲示発表をする。句集作成 句会ライブの実施。ゆくゆくは俳句甲子園に出場する	俳句の作り方を習得し、身の回りの 自然や人事を肌で感じ取り、17文字 で表す詩的世界を楽しむ



< 特別講演 >



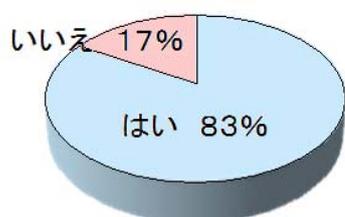
< 道徳の教科書 >



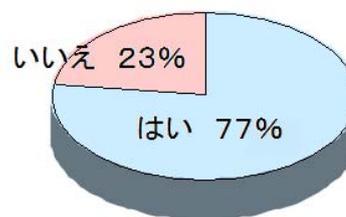
< 偉人伝授業 >

4. 道徳教育 生徒アンケート集計（1年生）

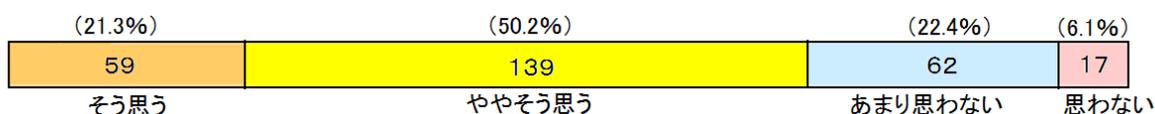
「道徳」授業はあなたのためになりましたか



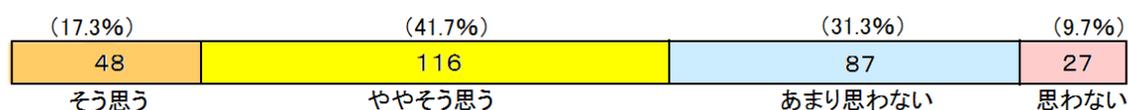
「和文化講座」はあなたのためになりましたか



設問1 授業を通して、自分を見つめ考えることができた



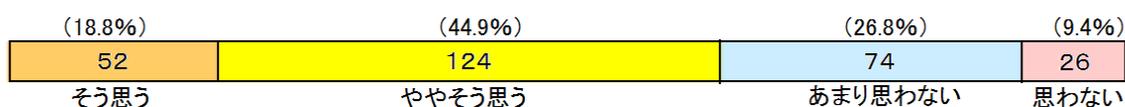
設問2 自分自身についてじっくり考えるようになった



設問3 家族や社会、仕事について考えるようになった



設問4 あなたは落ち着いて学校生活を送るようになった



5. 成果と課題

道徳の授業と和文化講座を今年度実施してみて、上記の表にも表れているように生徒のためになったが8割に、また、自分を見つめ、他者を思いやる気持ちが少なからず増えてきていることが実施者の励みになった。来年度からも授業の改善と教師自身が最大の教材であることを肝に銘じて授業に臨まなければならない。指導教員の次代を担う日本人を育てるという使命感と人間本来の在り方やより良い生き方を選択する道徳的心情と道徳的態度、判断力、実践意欲が湧く様な授業になるように、研鑽を積み、より組織的に日常的に道徳と和文化を感じる教育環境にしていきたい。

そして校訓の

「誠実」を磨き＝まわりの信頼を得る人物に

「忍耐」で＝確固たる自己をつくり

「努力」で＝未来を変える 古くて新しい校風を興したい。